

私の音楽の終着点と 医家邦楽クラブ

札幌市医師会
手稲病院

みやの
宮野 さとる
悟

生家の家族は皆歌が好きであった。私も音楽好きで幼少期に手回し蓄音機で三橋美智也などの歌謡曲を聴いていた記憶がある。私が小学校に入った頃、米兵に嫁いだ叔母から全自動の巨大なプレーヤーとレコードが贈られてきた。そこにはそれまで聴いたことのない音楽ばかりで、すぐに私はグレン・ミラーに引き込まれ熱中した。自分でも奏したくなり、漬物樽を釘で打ち付けてドラムを作り、祖母を激怒させたこともある。中学に入ると音楽教育の影響か、急速にクラシック音楽に関心が移っていった。フルートを始めたが独学では通用しないことが分かり、高校に入ると札幌の林先生にコントラバスを習いに通った。高3のとき林先生から「コントラバスは応募が少ないから芸大受かるかも」と言われ、大喜びで父に告げたところ「そんなもんで食えるか」と一蹴され夢は消えた。

室蘭工業大学に入学後は新日鐵室蘭吹奏楽団の山田先生にフルートを習い（後に黒光楽器で私が教えることになった）、ヴァイオリンを習い（室蘭ジュニアオーケストラではヴィオラを担当）、父が尺八を習っていた関係で黒光医院の黒光先生に尺八を習い、コントラバスはBossa-Nova & Jazzのバンドに入り文化祭やダンスパーティ等でベースを弾いていた。工業化学科の卒業だったので東京の水処理会社に就職したが、住居が鳩ヶ谷市であったため埼玉室内管弦楽団に入った。コントラバスを担当し5年ほど充実した音楽活動ができた。

昭和52年父が急死し実家に誰も居なくなり、帰札を余儀なくされた。しかし札幌ではプラント会社への就職先はなく無職となった。53年3月、当時は共通試験などなかったため一発勝負で北大医学部を受験し何とか引掛かった。すぐ北大オーケストラに入り、フルートを目指した。しかしフルートは人数が多く自分に番が回ってくる可能性はないことが分かり、半年後には北大邦楽研究会（邦研）に移り、以後尺八に専心することにした。

邦研の同期とは10歳ほど離れていたが、みな同輩として受け入れてくれ新サークル会館での練習は楽しいものであった。当時は藤・天使・北星の女子大、女子短大すべてに箏曲部があり、それぞれの定期演奏会に招かれて練習や交流が盛んで、邦研の尺八吹きも勇んで合同練習に行った。またこのときの尺八仲間とは事ある毎にススキノで飲み、その後タクシー10分の私の実家に移り、夜遅くまで語り明かした

ことは数え切れず、今思うと、非常に楽しく有意義な青春期となった。この仲間とは40年経た現在でも交流が続いている。さらにこの頃たまたま邦研の箏の学生の技術支援に来ていた女性と知り合い結婚。コロナが広がる前までさまざまな施設に依頼され、20年ほど妻と二人で演奏奉仕活動を行っていた。

一方本曲（芸道としての尺八独奏曲）や箏曲の古典を身につけるには組織に入門しなければならず、2年目のとき大道蕉山師に師事し、都山流尺八楽会に入った。資格制度には馴染めなかったが、結局在学中に初伝・中伝・奥伝・皆伝・准師範・師範（後2者は厳しい試験がある）を取った。このためその後の音楽活動は都山流札幌幹部会での演奏活動が主となっていった。平成13年札幌に戻ってからは箏の社中との演奏機会が大幅に増えた。しかし演奏技術は40代半ばから20年間停滞したままであった。65歳のとき“このレベルで終わりにたくない”と意を決し、吹き方を根本的に変えた。具体的には横隔膜、声帯、口腔のバランスの訓練。結果は70歳近くになって出た。音色が変わっただけでなく、昔できなかった運指が確実にできるようになり、高齢になってもニューロンのネットワークが新たに構築されることを実感した。今は仕事が終わると早く尺八を吹きたくてうずうずして病院を出ている。

医師会邦楽クラブについて。この邦楽クラブは近年コロナで中止になる前までは北海道医師会と札幌市医師会の後援により、年2回定期的に開催されてきている。私が初めてこの医師会のクラブに参加したのは平成元年頃。当時は日本舞踊が最も多く、民謡、長唄、小唄、詩吟、落語など多彩で、箏曲はわずかであった。参加人数も多く、打ち上げはホテルの大宴会場がびっしりとなった。しかしその後私は地方に赴任となり長年の間参加できず、平成22年復帰したときはクラブは様変わりして、会員（医師）と準会員（会員家族、職場仲間）は20人ほどに減っていた。また演目も箏曲が圧倒的に多くなっていた。その後は箏曲どうしの大合奏を組んだり、長唄三味線、三線の名手が活躍したり、さまざまな工夫や変遷を経てきている。現在、竹井秀敏会長（札幌山の上病院）のもとに、今年の秋、2年ぶりに第71回札幌市医師会・第60回北海道医師会共催の開催を目指して計画を立てている。歴代の会長も会員数、曲数の減少対策に腐心してきているが、目下は現会員の活動エネルギーを高めていくことが現実的な対策と考えている。当クラブは、日本の伝統芸能と関連しているものであればどのようなジャンルでも構わず参加でき、芸歴やレベルは関係ありません。打ち上げでそれぞれの芸の話を語り合うのも楽しいものです。関心ある方、問い合わせ等は竹井会長または宮野（090-9087-2731）まで。